

たまたま諸將候う所を恥と顧み妻子の愛小惑漏之國の大事を
 過ごすこと少く脱氣を懸むれば小まづく使節を遣はせしむるも
 國司は藻中を怖しまわらせ予陣中へ供奉しつゝも信長へ影
 界使を好まざる軍小軍の道を通り律を犯せりて貴しとを徒小士民を驚らし
 て國中の惱を懸さんより速小商家の和睦を料理合戦を止さんらんこそ世の
 為自のため他は為安泰の基は早く怨念を翻し順和の心を起し
 命遣一遊をさしよと初めたる小より而使節田又た是の當否九存つ
 と使節と好し棄損する人質と懸く送歸さしける

信長義使説國司辨和睦屬勢別平法

人間の患若し別難小過るるをこそ得小種を勇士とて大河内宇保の個々
 も遠道秀吉が奇謀小托さるる多難の要産を脱却せしむるは勝國司の連枝を

細小諸將の妻子を棄損らば悲歎は出り説きも腸百折する候會より
 信長より使節の多難を少く棄損するは女性幼雅と送るは城門外小
 報せしむる實好しと思ふも人を出さしむる小忘説きしむる者
 計詰りも織田家より使者と丸一送るは若田菅谷諸將小は國
 司父子對面し使節の禮を厚するは終て若田徳川や夜若織田家
 の侍大将木下と重きもの多難の館を攻め河連枝を以て諸將の内
 室残らば棄損する事軍は不為是非を作終つて是れ全く信長
 の本意小作らば用く賢く懸く送るは信長素より北
 島家小怨ありとらふ小あらば遠道軍を遣はし事八國郡を棄損る
 小し去る頃放將軍の好がたわ小軍せし當將軍家義を揚らる
 ため小より多人信長速小河將佐小絶えり忽ち凶徒を誅しをり